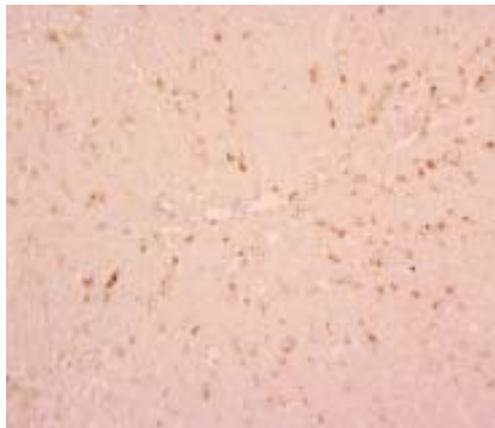


抗ウサギマクロファージ/単球モノクローナル抗体 (Clone No. RbM2)

RbM2 は、ウサギマクロファージおよび単球のリソソーム膜表面に特異的なモノクローナル抗体で、ウサギの腹腔マクロファージを免疫原として作製されました。本抗体は、種々の樹状細胞や表皮のランゲルハンス細胞とは反応を示さないことが確認されており、この反応特異性は、食作用の実験でも確かめられています。

また、本抗体は、リソソームの膜表面にある分子量 50kDa の蛋白質と反応することが分かっており、単球/マクロファージの同定だけでなく、リソソームの識別にも有用であると考えられます。

容量	50 μ g (200 μ L/vial)
形状	マウスモノクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2%ブロッカー(安定化蛋白)、0.1%proclin 含有]
保管方法	- 20 以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は 4 で保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
クローン番号	RbM2
サブクラス	IgG1
製造方法	ウサギ腹腔マクロファージで免疫した BALB/c マウスの脾臓細胞とマウスミエローマ NS-1 を融合して得たハイブリドーマを BALB/c マウス腹腔内で増殖させ、腹水を採取。採取した腹水より Protein G アフィニティーカラムにて精製。
使用濃度	組織染色: 10 μ g/mL (凍結切片使用可、パラフィン切片使用不可)



ウサギ肝臓(凍結切片):クッパー細胞が陽性反応を示す

提供 竹屋元裕 教授 熊本大学医学部病理学第二講座

抗「ウサギ」マクロファージ/単球モノクローナル抗体 (Clone No. RbM2)

【特異性】

器官	反応性	
	陽性	陰性
胸腺	皮質マクロファージ 髄質マクロファージ	上皮細胞 樹状細胞
脾臓	赤脾髄マクロファージ	動脈周囲リンパ鞘の IDCs 辺縁帯マクロファージ 胚中心の濾胞樹状細胞
リンパ節	濾胞内核片貪食マクロファージ 洞内マクロファージ	頸傍の IDCs (*) 胚中心の濾胞樹状細胞
肺	肺胞マクロファージ	
肝臓	クッパー細胞	類洞内皮細胞 類洞周囲腔の脂肪摂取細胞 実質細胞
皮膚	真皮マクロファージ	ランゲルハンス細胞 表皮樹状細胞
脳	クモ膜下腔マクロファージ	ミクログリア
その他	単球 腹腔マクロファージ 大網マクロファージ	顆粒球 リンパ球 赤血球 多核白血球 神経細胞 筋細胞

(*) IDCs=指状嵌入細胞

【参考文献】

1. Shimokawa Y., Takeya M., Miyauchi Y., Takahashi K. (1990): A monoclonal antibody, RbM2, specific for a lysosomal membrane antigen of rabbit monocyte/macrophages. *Immunology*. 70: 513-519
2. Ruan Y., Takahashi K., Naito M. (1995): Immunohistochemical detection of macrophage-derived foam cells and macrophage colony-stimulating factor in pulmonary atherogenesis of cholesterol-fed rabbits. *Pathol Int*. 45(3): 185-195
3. Yoshimura N., Arima S., Nakayama M., Sato T., Takahashi K. (1994): Renal impairment and intraglomerular mononuclear phagocytes in cholesterol-fed rabbits. *Nephron*. 68(4): 473-480

製造元


株式会社トランスジェニック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX: 078-306-0296

URL: <http://www.transgenic.co.jp> techstaff@transgenic.co.jp